

1 主題名

「児童生徒、教職員、地域や保護者間の交流を図りながら、心身ともに健全な『ふたばっ子』の育成を目指して」

2 主題設定の理由

平成19年6月に公布された学校教育法の一部改正により、教育基本法の改正を踏まえて、義務教育の目標が具体的に示されるとともに、小・中・高等学校においては、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基本的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と定められた。小学校と中学校のいわゆる義務教育といわれている時期の教育は、生きていく上でのまさに土台を築くものである。義務教育の目標が達成されるよう、義務教育9年間を見据えた系統的な指導の工夫を図ることが求められている。

水戸市においては、小学校から中学校への進学の際に、「学習意欲の低下」、「計画的に学習をする児童生徒の割合の低下」、「不登校児童生徒数の激増」などの課題がある。また、学校生活のきまりや学習内容、指導などの急激な変化に戸惑いや負担を感じている児童生徒もいるのが現状である。このような課題に対応するため、平成20年度より「水戸市立小中学校の連携」を進め、平成24年度からさらにこれらの取組を発展させ、全ての小学校と中学校において小中一貫教育を推進することとなった。その水戸市としての小中一貫教育のねらいは、以下の5点である。

- (1) 9年間を見通し、子どもの発達と学びの連続性を重視し、学習への意欲を引き出し学力向上を図る教育を実践することで、義務教育を修了するにふさわしい確かな学力を定着させる。
- (2) 9年間を見通し、子どもの発達段階に応じた系統的・継続的な生徒指導を行うことにより、安心できる学校生活を実現する。
- (3) 児童生徒間の多様な交流活動や地域との交流により、豊かな人間性や社会性を育成する。
- (4) 教職員が児童生徒一人一人への理解を深めることにより、個に応じた指導や支援を充実する。
- (5) 小学校と中学校の教職員が相互に交流を深めることにより、教職員の資質と指導力の向上を図る。

水戸市立双葉台中学校区では、これまで、「確かな学力」「安心できる学校生活」をねらいとして、双葉台小学校・双葉台中学校で小中連携を進めてきた。平成24年度からは、水戸市の小中一貫教育「まごころプラン」に基づき、これまでの取組を発展させ、隣接型小中一貫教育推進校として、小中一貫教育を推進することとなった。

3 研究のねらい

- (1) 各教科の学習において、「基礎的・基本的な知識と技能を習得できる児童生徒の育成に努める」という視点で、合同研修会や相互授業参観を行うことにより、「確かな学力」を身に付けた児童生徒の育成を図る。
- (2) 学校行事や集会活動、部活動等において特色ある活動を展開することにより、集団行動

での規律を意識し、時と場に応じた行動ができる児童生徒の育成を図る。

- (3) 地域の特性や資源を調査・発掘し、児童生徒間の交流や地域との交流を図ることにより、豊かな人間性を備えた児童生徒の育成を目指す。

4 研究の仮説

- (1) 9年間を見通し、児童生徒の発達と学びの連続性を重視した教育を実践することで、義務教育を修了するにふさわしい「確かな学力」を定着させることができるであろう。
- (2) 児童生徒間の多様な交流活動や地域との交流を実践することで、豊かな人間性や社会性をもった児童生徒を育成することができるであろう。

5 研究の内容

(1) 研究の経過

平成20年度から双葉台中学校区として、「TT授業や出前授業などの校種を越えての授業等の実践」を重点目標に研究を推進してきた。平成24年までの実践内容は次の通りである。

① 互いの学校を知る連携

- 小中連絡会と第1回小中連絡協議会の開催
(前年度の小6の担任を招き、授業参観や懇談を実施)
- 第2回小中連絡協議会の開催
(学習や生徒指導・特別支援などについての情報交換や話し合い)
- 総合的な学習の時間発表会に向けた打合せ
- 第3回小中連絡協議会の開催
- 中学校新1年生の学級編成に関する情報交換会

② 「安心できる学校生活」をねらいとした連携

- スクールバスの同乗指導および安全確保
- 特別支援コーディネーターによる情報交換会
- 学童軟式野球茨城県大会開会式行進曲の小中合同演奏
- 中学校吹奏楽部定期演奏会への賛助出演
- 清潔なまちづくり運動の同一日実施
- 新入生説明会での中学校の説明、授業参観、部活動見学
- 小学校スクールバンド定期演奏会への賛助出演
(前日にリハーサルを実施)

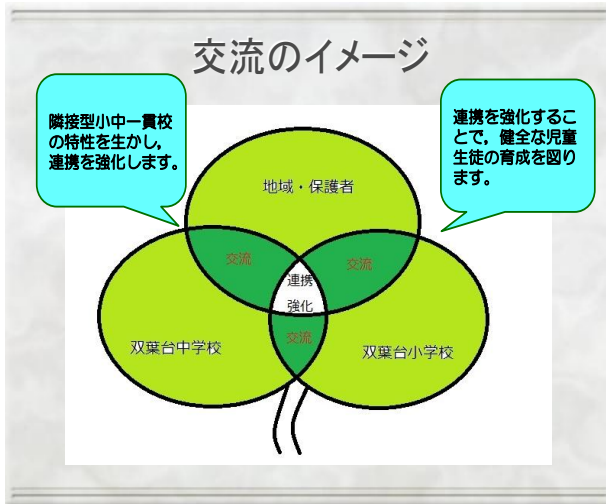
③ 「確かな学力」をねらいとした連携

- 小中連絡協議会夏季研修会
(各教科・総合的な学習の時間・生徒指導・特別支援・養護など分科会形式での情報交換)
- AETを交えた英会話研修
- 中学校体育教師による小学校陸上記録会の練習での指導
(3日間実施)
- 小学校の英会話授業参観と話し合い

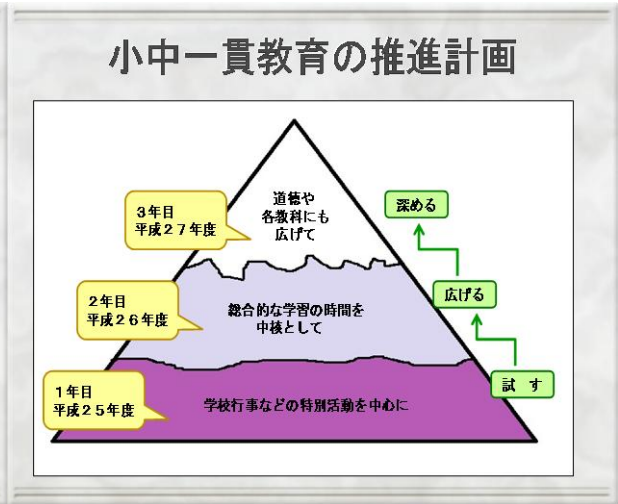
- 小学校担任とAET, 中学校英語担当教諭とAETによる小学校英会話授業の実践 (小学6年生)
- 中学校教師による小学校6年生の授業参観
- 小学6年生による中学1年生の総合的な学習の発表会の参観

(2) 研究の構想図

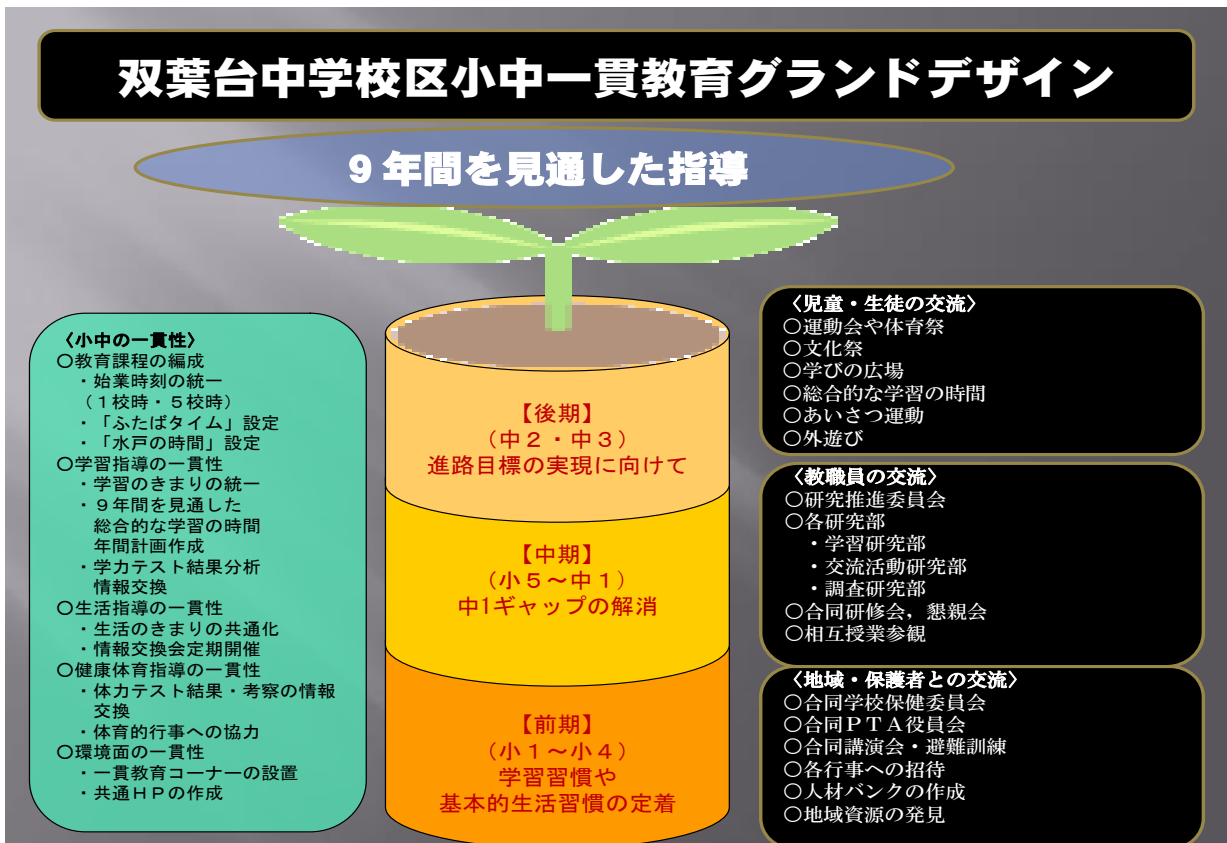
① 小中一貫教育のイメージ【資料1】



② 小中一貫教育の推進計画【資料2】



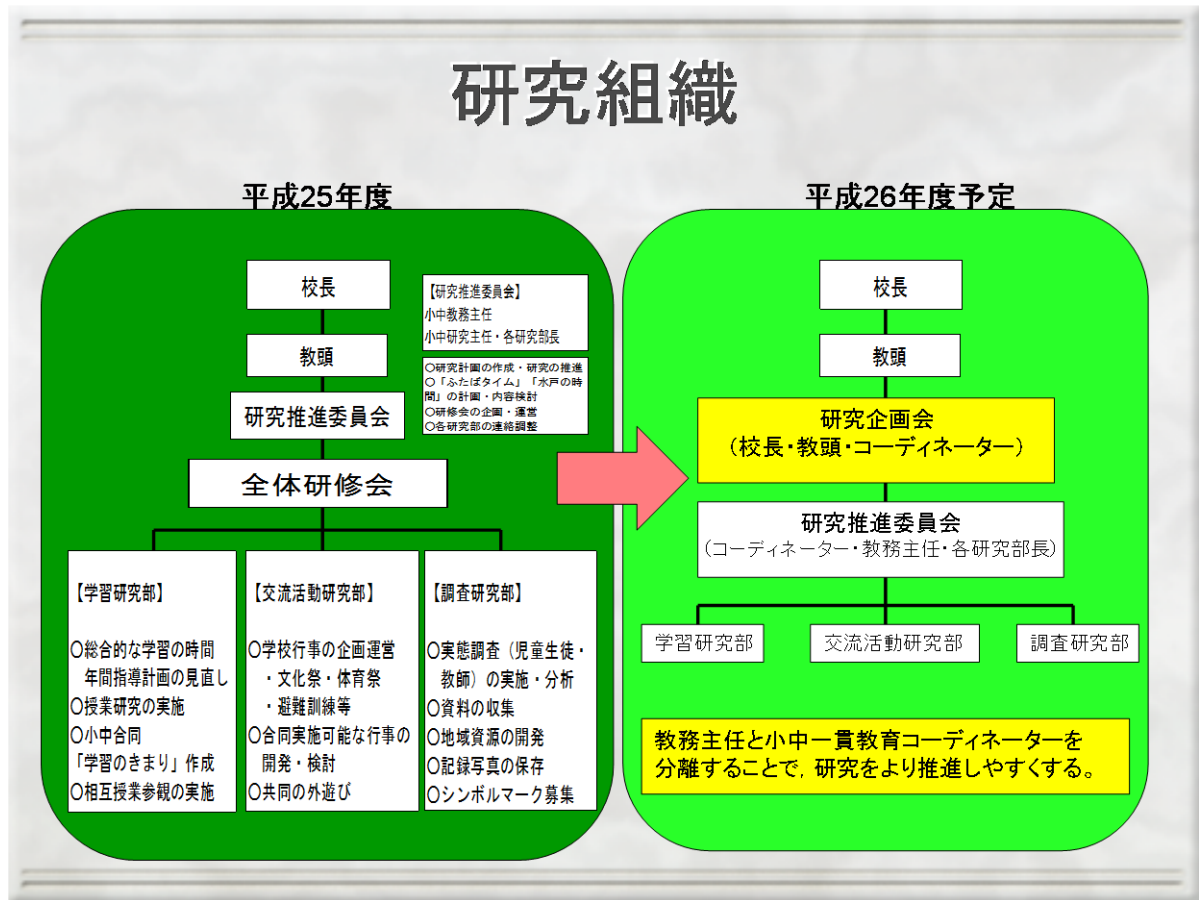
③ 9年間を見通した指導【資料3】



小中一貫教育のイメージは【資料1】のように、小学校と中学校そして地域や保護者の連携を強化し交流を図るものである。小中一貫教育を推進するにあたり、【資料2】にあるように、1年目が「試みる」2年目が「広げる」3年目に「深める」ようにした。

また、9年間を見通した指導として【資料3】のように、小学1年生から中学3年生までを前期・中期・後期の3段階に分け、それぞれの段階に合った交流活動を推進していくことにした。

(3) 研究組織【資料4】



研究組織は、【資料4】のように「学習研究部」「交流活動研究部」「調査研究部」の3つの部会を設け、研究にあたることにした。

小中の行事等が異なるために、平日にはなかなか研修日を設けにくい。そのため、夏季休業を利用して、研修を行うようにした。

6 研究の実際

(1) 「確かな学力」の育成

① 小中連絡会

中学校入学前に小学校6年担任と中学校が情報交換を行っている。

② 学びの広場

小学生と中学生がさまざまな場面で交流できるように、本年度から小学校で行っている「学びの広場」を中学生が補助するようにした。

③ 「学習のきまり」の小中統一

これまで小中共通の学習のきまりがなく、学習課題やまとめを囲む色が小中でまちまちであったり、学習用具の置き方が統一されていなかったりした。きちんとした学習習慣の育成が「確かな学力の育成」につながるものと考え、夏季休業中の職員研修で学習研究部員が話し合いを行い、「学習のきまり」を作成した。

④ 相互授業参観・乗り入れ授業

計画訪問や要請訪問そして校内授業研究の際には、互いに連絡を取り合い相互授業参観を行うようにしている。

⑤ 学力向上に向けて

学力診断のためのテストや全国学力・学習状況調査結果から、徐々に学力が向上してきていることが判明している。しかしながら、年度により学力の差が著しい傾向も見られる。学力テスト結果の情報交換を行うとともに、「あいさつ」「話の聞き方」「黙働」の3つを小中学校共通の重点課題としてとらえ、学力向上をめざしている。

(2) 教育課程編成上の工夫

① 教育課程編成の工夫 【資料5】

	月	火	水	木	金
8:10	朝の読書	朝の読書	自習	自習	※水戸の時間
8:35	朝の会	朝の読書 (学年朝会) 朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
8:40	1	6	12	18	24
9:30					
9:40	2	7	13	19	25
10:30					
10:40	3	8	14	20	26
11:30					
11:40	4	9	15	21	27
12:30	給食				
13:10	昼休み	ふたば タイム	昼休み		
13:30	清掃		清掃		
13:45	5	10	16	22	28
13:55					
14:45	(月)帰りの会 14:50~15:05 下校 15:10	11	17	23	29
14:55		帰りの会			
15:45		下校・部活動			
15:50					
16:05					
16:10					

登校時刻と5校時の開始時刻を小中でそろえた。

郷土を愛する児童生徒を育てるために設定「水戸教学」「水戸市歌」「校歌」などの学習を行う。

水曜日の昼休み・清掃をなくし委員会や集会活動・交流活動を行えるようにした。

【資料5】のように、教育課程に「水戸の時間」と「ふたばタイム」を本年度より小中学校共通で位置付けた。そして、ふるさとである水戸や双葉台を愛する児童生徒の育成を目指して、「水戸の時間」に「先人の言葉」の暗誦・校歌や水戸市歌の斉唱を行っている。また、週に1回水曜日の昼清掃をカットすることで「ふたばタイム」を設け、委員会活動や小中交流の時間を確保した。

② 「ふたばタイム」を利用した活動

「ふたばタイム」を利用した小中交流には、「小学校校庭の石拾い」があげられる。

これは、小学校の春の運動会に合わせて中学生が小学校の校庭の石拾いを行ったものである。自分の卒業した小学校の校庭をきれいにすることにより、小中一貫教育のねらいの一つである「郷土を愛する」生徒を育てたいと考え実践した。

(3) 学校行事や集会活動・部活動等

学校行事等で小中学校が交流を図る計画は「交流活動研究部」が作成した。2・3学期の活動計画は、夏季休業中の研修で作成した。

① あいさつ運動

本年度、水戸市では6月13日に市内全小中学校で一斉にあいさつ運動を行うことになった。これを小中一貫教育のよい活動機会（小中合同のあいさつ運動）にとらえ、双葉台中学校区では年間を通してあいさつ運動を行うことにした。

小中学生が互いの学校の前に立ち交流を図るとともに、地域の安全パトロールの方にも協力をお願いした。

② 体育祭練習および体育祭

体育祭前は、中学校の校庭がどうしても混雑し、リレーの練習等でケガが起きやすい。そこで、小学校の校庭を利用して放課後に練習を行えるようにした。これは、小学生にも中学校の学校行事がどのようなものであるかを見てもらうという意味もあった。本年度、体育祭当日には小学6年生を20名招待し、小中学校学年対抗玉入れを行った。

③ 清潔なまちづくり運動

これまで小中別々に行ってきた「清潔なまちづくり運動」を小中合同で行うことにした。中学2・3年生は、学校から離れたところを行い、中学1年生は小学1年生から4年生までと学校近辺の清掃を行った。中学生が、小学校低学年の児童の面倒を見ながら、一生懸命清掃活動に取り組む姿が見られた。

④ 小中合同避難訓練

震度5強以上の地震が発生した場合をはじめ、緊急事態発生時に児童を保護者に円滑に引き渡すことができるようにする。引き渡しができない児童に関しては、中学生および教師が方面別に自宅まで誘導した。

初めての合同避難訓練ということで不安も多くあったが、事前の班編制や名簿準備等により、混乱もなく無事に終えることができた。

⑤ 萌葉祭（中）・ふたばっ子祭（小）の同日開催

小中一貫教育の活動の一環として、これまで別々に開催してきた文化祭を同日に開催することにより、児童生徒の交流を図るとともに、保護者や地域住民の参観の機会を増やそうとした。

教職員および保護者へのアンケート結果より、同日開催に関して否定的な意見が多かった。今回、小中学校互いの日程調整がうまくいかなかったために中学校の合唱と小学校の授業参観が重なり、双方の見学ができなかったことが主な要因である。

小中一貫教育推進校として、この大きな行事を通して児童生徒の交流を図るのはとても重要なことである。来年度は、小中を別日開催としながらも、それぞれの開催日を授業日とし、積極的な交流を図る予定である。

⑥ 部活動等の交流

ア 部活動と少年団活動との連携

平日は難しいが、休日や長期休業期間を利用して、部活動と少年団の交流も行っている。少年団の児童が中学校に来て一緒に練習するとともに、部活動の指導者が少年団の指導を行っている。小学校から中学校への橋渡しの方法の一つである。

イ 小学校スクールバンド部と吹奏楽部の連携

これまでも互いの定期演奏会に出演することで小中の交流を図ってきたスクールバンド部と吹奏楽部であるが、本年度は合同定期演奏会にした。それぞれが演奏するだけでなく、合計80名もの児童生徒が同じ曲を演奏することで迫力のある演奏になるとともに、小中一貫教育への取組をアピールすることができた。

(4) 学校・保護者・地域との融合

① 保護者との連携

ア 小中合同学校保健委員会

これまで別々に開催してきた学校保健委員会を、7月18日に小中合同で開催した。講師を学校歯科医に依頼し、「歯周病と全身の病気との関わり」という演題のもと講演をしていただいた。小中合同ということで、保護者の参加者数も約70名と増えた。2学期の学校保健委員会は、小中別々に開催したものの、合同の資料を用意し、保健主事と養護教諭が相互に参加するなど、情報を共有することができた。

イ 小中合同PTA奉仕活動

これまで夏季休業末の土・日の両日に行ってきたPTA奉仕活動であるが、保護者の負担を考え、8月31日に小中同時に開催することにした。担当したPTA厚生委員会は、役割分担等で大変であったが、小学校と中学校のPTA役員が連絡を取り合い、無事に開催することができた。同日開催は保護者に好評であった。

② 地域との連携

双葉台中学校区は以前から地域と学校の結び付きが強く、これまで地域と学校が一緒になって様々な活動を行ってきた。地域や保護者とともに、児童生徒を育てるという考えから、本年度も継続して活動を行っている。

ア 双ツ山学級

将来、地域を担うリーダーを育てるために行っているのが「双ツ山学級」である。学期に1回、中学校の図書室に地域の青少年育成会の方が集まり、地域の祭りの計画等の準備を行っている。今年は次記「双ツ山祭り」と同時開催することで、行事のスリム化を図った。

イ 双ツ山祭り

毎年8月上旬に地域の公民館を利用して行われているのが「双ツ山祭り」である。地域にある公民館を中心に行われるものであるが、中学生がお手伝いをする形で参加している。

(5) 9年間の指導計画立案

① 小中合同研修会の開催

2学期および次年度以降の小中一貫教育の方向性を確立するために、夏季休業中に3回研修会を開催した。

研修会の内容は、「2学期の活動内容の検討」「総合的な学習の時間の見直し」「アンケート内容の検討」が主なものであった。また、第2回の研修日の夜には「小中合同

懇親会」も開催した。

② 総合的な学習の時間の見直し

総合的な学習の時間の年間指導計画はあったが、小中学校別々に作成していたため、同じ内容を繰り返したり、地域の実態に合わなかったりする部分があった。そこで、小中一貫教育を進めるにあたり、【資料6】のように総合的な学習の時間の見直しを図り、研究の柱にしようと考えた。

ア 改訂のねらい

- 9年間で児童生徒を育てるということで、筋の通ったものにする。
- 小学校で学んだり、経験したりしたことが、中学校にも生かされ、さらに深められるようにする。

イ 全体の共通テーマ 「大好き!!双葉台」 ～地域から学ぶ私たちの生き方～

地域との交流を総合的な学習の時間の柱とし、さまざまな交流を行うために、上記テーマとした。

【資料6 双葉台中学区 総合的な学習の時間 全体計画】

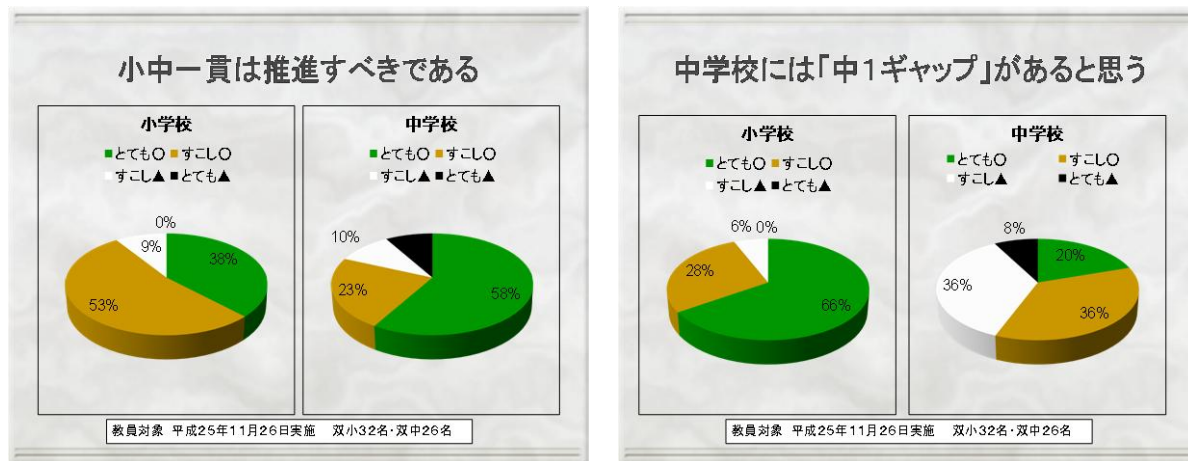
平成26年度 双葉台中学区 (総合的な学習の時間) テーマ等について								
学年	時数	ねらい (育てたい力)	新しいテーマ	旧テーマ	主な活動	発表会では (26年 11月予定)	ジャンル	備考
小学 3年	45	身近な社会の様子を調べ、自分の住む地域に愛着をもつ。	双葉台を知る	双葉台の〇〇はかせになろう	・学校の周り探索 ・双葉台マップ作り	単独であるいは小5中1と	地域	
小学 4年	45	地域に住む方との交流を通して地域との結びつきを深める。	双葉台に住む人のやさしさ	人にやさしい双葉台	・高齢者や障害をもつ方との交流	中学3年生と	福祉	老人ホーム等の調査
小学 5年	70	農業体験活動を通して、地域の自然や産業を知る。	双葉台の自然の恵み	ありがとう自然の恵み	・お米づくり ・環境学習	中学1年生と	地域 (産業)	ボランティアの活用
小学 6年	70	地域に住む年長者の方から生き方を学ぶ。	双葉台から学ぶ自分の生き方 Part 1	夢に向かって未来をひらく	・将来の夢 ・GTを招いて	中学2年生と	キャリア	GT選び
中学 1年	35	体験を通して、地域の良さを見つめ直す。	双葉台の自然をもっとくわしく知る	ふるさと発見	・農業体験(畑)さつまいも ・自然体験活動(少年自然の家) ・栽培物品の販売	小5と合同(少年自然の家)	地域 (産業)	時数不足は特活から補う畑の確保ボランティア要請
中学 2年	50	職場体験を通して自分の生き方を考える。	双葉台から学ぶ自分の生き方 Part 2	豊かな人々の暮らしに目を向けよう	・職場体験	小6と合同(双小で)	キャリア	職場体験場所の集約・データ化
中学 3年	50	双葉台地区に愛着をもち、未来への展望を抱く。	双葉台への恩返し	われら地球人～住みよい地球をつくろう～	・近隣に住む老人との交流	小4と合同(双中または市民センターで)	環境 福祉	市民センターを通しての老人との交流

(6) 児童生徒の変容の検証

双葉台中学校区小中一貫教育の実態を調査するために、夏季休業期間の職員研修を利用して、調査研究部がアンケートを作成し11月に実施した。

① 教職員への調査より

平成25年11月上旬実施 中学校教職員（26名）小学校教職員（32名）

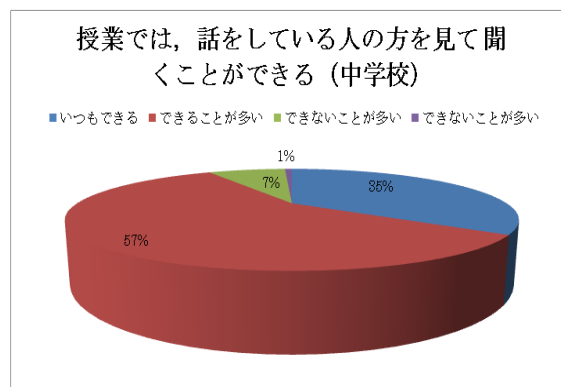
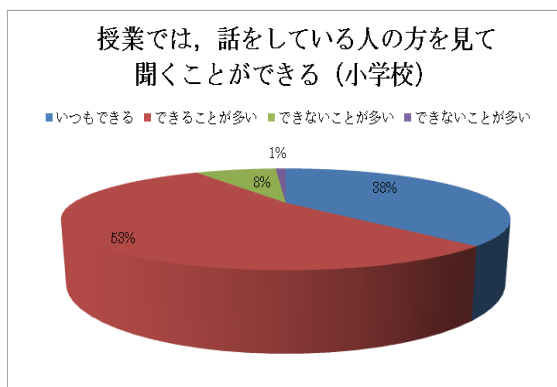


小中学校ともほぼ同じような傾向が見られる項目がある一方、「連携を図るには時間がかかる」「中1ギャップがある」の項目では小中学校の教職員の考え方に違いが見られた。天笠茂は著書「小中一貫のマネジメント」で「小中学校の文化の違いを理解すること」を小中一貫教育のポイントとしてあげている。小中学校の違いを理解した上で、実践を積み重ねて行く必要があると感じた。

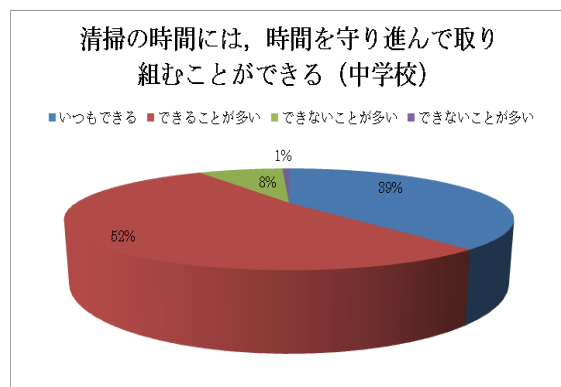
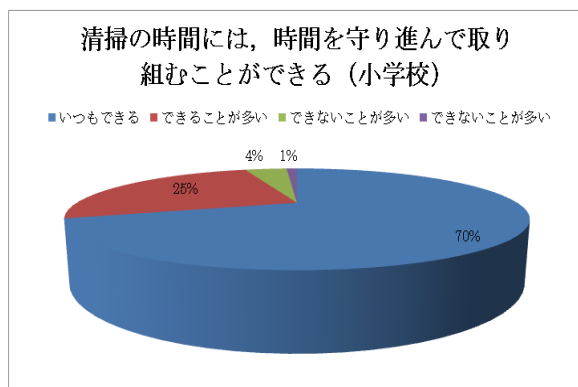
② 児童生徒へのアンケート調査結果

平成25年11月下旬実施 中学校生徒 342名 小学校児童 718名

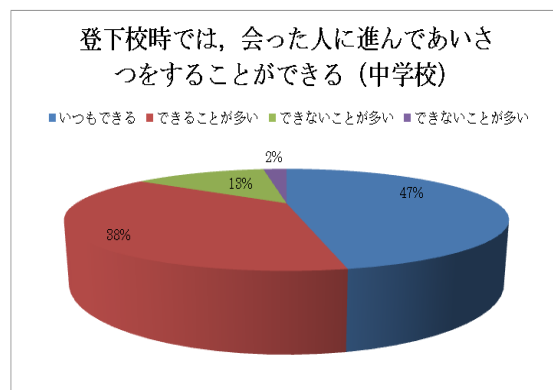
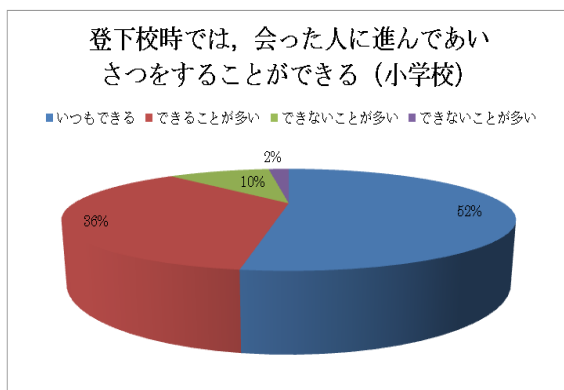
ア 話をきちんと聞くことができる



イ 進んで働くことができる



ウ 元気にあいさつや返事ができる



「話の聞き方」「あいさつ」については、小中学校に大きな違いは見られない。しかし「清掃への取組」に関しては、中学校のほうがよくない。発達段階の違いも要因として考えられるが、中学校の重点課題とすべき項目と捉えている。

7 研究の成果

- (1) 研修会や相互授業参観等の教職員の交流の機会が増えることで、児童生徒の課題を共有することができるようになってきている。また、全国学力・学習状況調査結果や学力診断のためのテスト結果も向上しつつある。
- (2) 本年度は特別活動を中心に小中一貫教育を推進してきたが、その活動の中で「やさしさや思いやりのある言動」が多く見られた。心の成長は基本的な生活習慣の育成へとつながり、時と場に応じた言動となって表れている。
- (3) 児童生徒のみならず、保護者や地域の方との交流の機会を設けることにより、児童生徒の心は耕され、豊かな人間性や社会性を育むことにつながっている。

児童生徒へのアンケートはまだ1回しか実施していないため客観的な評価はできないが、重点目標3つへの取組には8割以上の児童生徒が高評価を残している。これも取組の成果と考えたい。

8 研究の課題

- (1) アンケート結果から「小中一貫教育が児童生徒の学力向上に有効である」と考えている教職員が多いことから、交流の機会をもちやすいという隣接型小中一貫教育推進校の地の利を生かし、さらなる学力の向上を図りたい。
- (2) 本年度は児童生徒の交流の機会が当初予定していたよりは多くもてなかった。次年度からは「総合的な学習の時間」を中核として、交流の機会を広げたい。
- (3) 学校行事等においては、本年度の文化祭のように小中同時開催で成果が得られないものもある。児童生徒の成長のために内容等を吟味しながら、より効果的なものとなるように改善していきたい。
- (4) 一貫教育の成果は単年度では表れにくい。データを蓄積しながら、複数年にわたる実践を継続し、成果を検証したい。